

氏名	鄭 英祚
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健福祉学
学位授与番号	博甲第96号
学位授与の日付	平成26年3月24日
学位論文の題目	韓国における結婚移住女性の家族関係継続意思に関する研究
学位審査委員会	主査 中嶋和夫 副査 山口三重子 副査 近藤理恵

学位論文内容の要旨

本学位論文は、東アジア地域で増加している結婚移住女性の家族関係の継続を支援するための社会福祉学的な方策の開発に資する基礎資料を得ることをねらいとして、韓国人男性と家族を構成している韓国在住の結婚移住女性を対象に、彼女らの家族関係の継続意思にどのような要因が関連しているかを明らかにすることを目的とした。

本学位論文では、前記の研究目的を達成するために、韓国在住の結婚移住女性の調査データを基礎に、1) 結婚生活コミットメントと家族関係継続意思の関係を明らかにすること、ならびに2) 結婚生活コミットメントに関連する要因を明らかにすることのふたつを研究課題として設定した。

前記1)の研究課題においては、韓国のA及びB道の多文化家族支援センターを利用している結婚移住女性580人を対象に、2010年12月(1ヶ月間)に調査を実施した。調査内容は、基本属性(年齢、国籍、最終学歴、結婚継続期間)、結婚生活コミットメント、家族関係の継続意思で構成した。なお、結婚生活コミットメントは、態度コミットメントと行動コミットメントのふたつの側面から測定した。統計解析には、回収された363人の調査票のうち、統計解析に必要な回答項目に欠損値を有さない197人のデータを使用した。結婚生活の態度及び行動コミットメントを独立変数、家族関係継続意思を従属変数と仮定した因果関係モデルのデータへの適合性ならびに要素間の関係性を構造方程式モデリングで解析した。前記の因果関係モデルの解析に先立ち、新たな開発を企図した「結婚生活コミットメント測定尺度」の構成概念妥当性を検討したところ、それは統計学的に支持された。なお、結婚生活行動コミットメントを意味する夫婦同伴行動測定尺度においては、構成概念妥当性の交差妥当性が統計学的に支持された。統計解析の結果、前記因果関係モデルはほぼデータに適合し、また要素間の関連性に着目するなら、1) 結婚生活態度コミットメントを構成して

いる3因子のうち、夫に対する愛情や好意的感情を意味する「情緒的コミットメント」が家族形成継続意思に直接的に影響を与え、また、2) 前記の「情緒的コミットメント」は、夫婦同伴行動を通して間接的に影響していることを明らかにした。

以上の結果から、結婚移住女性の家族形成を支援するには、社会福祉学的な支援のひとつとして、夫に対する情緒的コミットメントの形成と夫婦同伴行動を重視した介入プログラムの開発が必要なが示唆された。

次に、前記2)の研究課題においては、韓国C道の女性政策開発院が保管する『多文化家族の生活に関する意識調査』のデータの中から、前記開発院長の許可のもとに(2011年3月)、統計解析に必要なデータを抜粋した。前記調査は2009年12月に韓国C道に在住する結婚移住女性1000人を対象に実施されたものである(当時、著者は研究補助者として参加)。統計解析のデータとして抜粋した内容は、人口社会経済的な要因(年齢、結婚継続期間、児の数、結婚経験、最終学歴、月収)、パーソナリティ特性(思いやり、コミュニケーションスキル、議論スタイル、伝統的家族意識)、結婚生活態度コミットメントである。統計解析には、回収されていた918人の調査票のうち、統計解析に必要な項目の回答に欠損値を有さない421人のデータを使用した。人口社会経済的及びパーソナリティ特性を構成する個々の変数を独立変数、3因子の結婚生活の態度コミットメントそれぞれを従属変数とする因果関係モデルのデータへの適合性ならびに要素間の関係性を構造方程式モデリングで解析した。前記の因果関係モデルの解析に先立ち、使用したすべての測定尺度の構成概念妥当性の交差妥当性を検討した。それはすべて統計学的に支持された。統計解析の結果、前記因果関係モデルはデータに適合し、また要素間の関連性に着目するなら、1) 結婚生活の態度コミットメントを構成している情緒的コミットメントには「思いやり」が、また2) 規範的コミットメントには「思いやり」「家父長的家族主義」「月収」が、さらに3) 持続的コミットメントには「思いやり」「家父長的家族主義」「年齢」「月収」が関連していることを明らかにした。上記の結果から明らかのように「思いやり」(対人関係を円滑に運ぶためのスキル)は、結婚生活態度コミットメントを構成する3因子すべてに統計学的に有意な影響を有していた。

以上の結果から、現在、韓国では結婚移住女性が韓国社会に適応することに主眼を置いたコミュニケーション支援を優先して展開しているが、それにとどまらず、人を思いやる心の表現に対するスキルの向上や夫を理解するための非言語的な部分を含めた社会福祉学的な支援の必要性が示唆された。

主業績

No.1	
論文題目	結婚移民女性の結婚生活コミットメントと家族形成継続意思の関係
著者名	鄭 英祚 朴 志先 金 貞淑 尹 靖水 中嶋和夫
発表誌名	国際高麗学, 第14号, 353-369頁, 2012年6月

副業績

No.1	
論文題目	多文化家族の韓国人夫の結婚生活コミットメントと家族関係継続意思の関係
著者名	鄭 英祚 朴 志先 尹 靖水 金 貞淑 中嶋和夫
発表誌名	民族研究, 第55号, 148-162頁, 2013年9月

関連業績

No.1	
論文題目	韓国の多文化家族における外国人妻の日常生活に関連した苛々感と精神的健康の関係
著者名	尹 靖水 朴 志先 鄭 英祚 金 貞淑 中嶋和夫
発表誌名	評論・社会科学, 第102号, 23-37頁, 2012年9月
No.2	
論文題目	国際結婚移民女性の結婚生活コミットメントに関連する要因の検討
著者名	尹 靖水 鄭 英祚 朴 志先 近藤理恵 中嶋和夫
発表誌名	梅花女子大学現代人間学部紀要, 第9号, 13-24頁, 2013年3月

論文審査結果の要旨

本学位論文では、多文化家族のうち、高い離婚率を占めている結婚移住女性の家族関係の継続を支援するための基礎資料を得ることをねらいとして、第一に、結婚生活の態度と行動コミットメントが家族関係継続意思にどのように関係しているかを実証的に検討し、第二に、結婚生活の態度コミットメントに関連する要因について検討している。

その結果、結婚生活態度コミットメントが家族関係継続意思に直接影響を与えるだけではなく、結婚生活行動コミットメント(夫婦同伴行動)を通して間接的に影響を与えるという仮説が実証された。このことはコミットメント理論を支持する結果と判断できる。また、人口社会経済的要因ならびにパーソナリティ特性要因が結婚生活態度コミットメントに関連しているという仮説が実証された。このことはサイドベット理論を支持する結果と判断できる。

以上の結果を基礎に、本論文は、結婚移住女性の夫婦は、短い期間に結婚が行われる特徴があり、結婚生活に多くの困難が予測されることから、多文化家族支援センターでは、結婚移住女性に向けた言語や文化のサービスを提供するだけでなく、夫婦が一緒に参加できるプログラムを積極的に展開することの必要性を指摘している。さらに、思いやりのように個人が持っている気質的要因は、幼い頃の育児環境とも関連があるが、結婚を契機に相互に配慮して夫婦関係を築いていくことが重要であると推察され、そのための支援策として、現在の言語習得に主眼を置いたコミュニケーション支援にとどまらず、人を思いやる心の表現に対するスキルの向上や夫を理解するための非言語的な部分を含めた社会福祉支援の必要性を指摘している。

以上の結果より、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士(保健福祉学)の学位論文として価値あるものと認める。